

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（12月）

留学先：The University of Findlay

氏名：岸本有実子

【はじめに】

12月になりいよいよ本格的に寒くなるかと思いきや、まだ15度を超えるような暖かさが続いたり、良い天気が続いたりしています。現地の人々はみな口をそろえて今年は異常だと言っています。この冬は世界的に暖冬なのでしょうか。早く雪が見たいです。

さて、感謝祭の連休（サンクスギビングブレイク）後（12月の始め）はテスト週間で、図書館や公共の学習スペースで学生たちが熱心に勉強しているのをよく目にしました。私は試験と呼べるものは2つしか受けませんでした。代わりに期末のレポート課題や12月の始めにあった FundaySunday（ボランティア）の準備に忙しい毎日を送っていました。また、12月の1週目にひどい偏頭痛に襲われ、学期最後の授業に出席できないというハプニングもありました。しかし12月10日によやくすべての授業を終え、待ちに待った冬休みに入りました。今回の報告書では、主にテスト期間と冬休み中の生活について報告します。

【テスト、課題、ボランティア】

前述のとおり、私は他の日本人学生ほど多く試験を受けたわけではありませんでした。IELPと呼ばれる語学学習コースの日本人学生たちは毎日のように試験があり、毎日公共の学習スペースで集まって勉強していました。一方私は、特にドローイングや文化交流のクラスで期末レポートを提出しなければならず、リサーチやペーパーに追われていました。また、リーディングのクラスではアメリカの社会・文化・歴史について、特に授業や課題で取り扱った内容に関連するリサーチとプレゼンテーションを課され、その準備に忙しい毎日を送っていました。またある授業ではインタビュー・アンケートを含めたリサーチを行ないました。毎日というわけではありませんでしたが、ある日はレポートを仕上げるのに時間がかかって深夜3~4時に就寝することもありました。そんな中でもボランティアの準備をしなければならない日もあり、あまり自分のしたいことができない期間でもありました。しかしそのあとに待っている冬休みの楽しみを糧に試験期間を無事に乗り越えることができました。

【冬休み…旅に出よう！】

試験期間が終わると、春学期が始まる1月初めまで寮やキャンパス内の施設が全て閉まってしまうので、住むことがかなり困難になります。そこで、3週間の冬休みを有意義に利用すべく、10月の初めごろから冬休み中の大旅行計画を立てはじめました。この旅には、私だけでなく福井県の奨学生の小野さんも同行しています。この留学中の目的として、ア

アメリカ各地を旅して新しい経験をし、人々と出会い学ぶというものがあります。この目的のためにそれが絶好のチャンスと捉え、なるべく多くの土地に、なるべく安く時間がかからない方法で、そして何よりアメリカと人々を知ることが大切にして旅行の目的地、方法を模索しました。目的地はワシントン DC、ボルチモア、フィラデルフィア、カナダ（オタワ、トロント）、そしてニューヨークに決めました。12月13日にフィンドレーを出発してからすでに2つの都市に滞在しました。DCもボルチモアもそれぞれ魅力的なところが多くあり、非常によい経験ができました。DCは首都ということもあり多くの行政機関や有名な美術館、博物館を訪れることができました。特にスミソニアン博物館群は圧巻でした。ホワイトハウスも訪れることができました。ボルチモアでは、特に芸術・音楽に関するコミュニティが力強く、ホスト先の方もそれらに関連する職業に就いているため関連する様々な場所に案内してもらいました。この方は日本のアーティストや芸術展の誘致も行っており、日本にとっても興味を持っておられました。特に地元の方が経営する小さなアートギャラリーがたくさんある地区はとても魅力的でした。また、家にいるときには、ボルチモアやアメリカ全体に関わる社会問題、日本とアメリカの文化などについて深い話をすることができました。

【とにかくアクティブに、そして安全に】

カウチサーフィンを通して地元の人々がとても親切に接してくれ、そしてアメリカについて多くのことを教えてくれるため、数えきれないほど貴重な経験をしています。また私と小野さんからもお礼に日本食を振る舞ったり、日本の伝統文化や行事について紹介できたりしているので、毎日がとても充実しています。さて、これから私たちはフィラデルフィアに向かいます。そこで何が待っているかとても楽しみです。これまでと同じく、またはそれ以上に積極的にアメリカについて学んでいきたいです。しかし何より大切なのは安全面です。トラブルに巻き込まれないよう慎重に行動したいと思います。次ページにいくつか写真を載せます。旅の後半の詳細は、また来月の報告書で。



←D.C.で撮影したホワイトハウスの写真です。他にも米国国会議事堂や最高裁判所など、テレビや教科書でしか見たことのないような建物がたくさんあり、どれも見ごたえがありました。

→カウチサーフィンで出会った地元の人々はとても暖かく、いつでも会話が弾みました。



←スミソニアン博物館とはまた別に、米国ホロコースト博物館という場所も訪れました。これまで部分的にしか知らなかった歴史を細部まで学ぶことができ、とてもよい経験になりました。もちろん解説は全て英語で、しかも専門的な用語も含まれているので全て読むのは大変で、とても頭を使いました。

→ボルチモアではダウンタウンよりもむしろ住宅街などに魅力が詰まっていた。クリスマスのイルミネーションがとてもきれいな地区があったり、小さな個人経営のアートギャラリーが集まった通りがあったりと、歩いてとても楽しい都市でした。これらは、全て地元の人々に教えてもらいました。

